もみじ

－広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報－

一般社団法人　広島県山岳・スポーツクライミング連盟
〒733-0011　広島市西区横川町２丁目4-17
電話・FAX　（０８２）２９６－５５９７
E-Mail：hgakuren@lime.ocn.ne.jp
URL：　http://hiroshima-gakuren.or.jp
郵便振替口座　01380-6-37958

題字デザイン　今村みずほ　　　編集　西部伸也

本号内容

１．第２回連盟写真展開催
２．高体連『50 周年記念誌』紹介
３．山岳・ＳＣセミナー案内
４．登山教室（8/30 高城山・蓮華寺山・日浦山）報告
５．岳連短信（寄贈御礼、岳連行事の今後の見通し）

１．第２回連盟写真展開催

（写真展担当　西部 伸也）

8/25～30 に、広島市中区大手町のＮＨＫギャラリーで開催された第２回広島県岳連写真展が無事終了しました。

写真展には、連盟所属の各会 16 人の方から 40 点の作品を出展していただきました(昨年は15名･36点)。

6 日間の来訪者は 181 人でした。昨年(9/17～22 開催)の 305 人には及びませんでしたが、コロナ禍の最中、また、残暑が大変厳しい時期の開催であったことを考えると、多くの方々に来訪頂いたと言えるでしょう。

会場では、昨年同様、特に良かった作品を３つ選んでもらい、感想・気づきがあれば書いてもらうアンケートも実施しましたが、約３分の１の 58 人の方に協力頂き、感想・気づきのほうも 17 人の方が書いてくれました。

感想を少しばかり紹介させてもらいます。

「登山愛好家らしい写真がいいですね。サイズのばらつきも気になりませんでした。」

「山の表情や、人の動きがあって、山に行った気分になりました。山を味わうことのできる写真の量でした。」

「ふらっと立ち寄ったのですが、とてもきれいな写真ばかりで心を癒されました。〈この写真を撮るためにどんな苦労があったのか？どんな気持ちで撮っているか？〉など、いろんなことを考えさせていただきました。」

「登山に挑戦したいと思わせる写真に感動しました。」

「甲乙つけがたい作品ばかりで、山登りを楽しまれている様子にあふれていますね。好きと思える作品、行ってみたい場所を選ばせてもらいました。うらやましい！」

写真展ポスターと受付

展示パネル（8/24 会場設営時）

会場全景（8/24 設営時）

アンケートで一番人気だった植杉さん（竹原山岳会）の『穂高の秋』

２．高体連『50 周年記念誌』紹介

（事務局長　西部）

1970 年 4 月に広島県高体連登山部が山岳スキー部から独立して今年で 50 周年ということで、内藤編集委員（県高体連登山部事務局長）ほかの尽力により立派な記念誌が発刊され、当連盟にも寄贈いただいた。

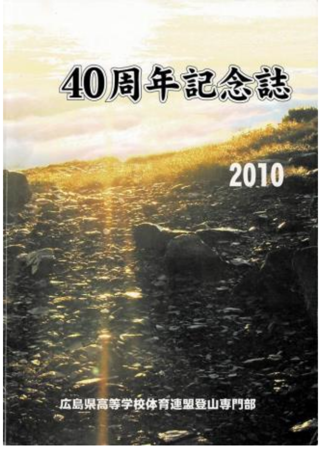
内容は、

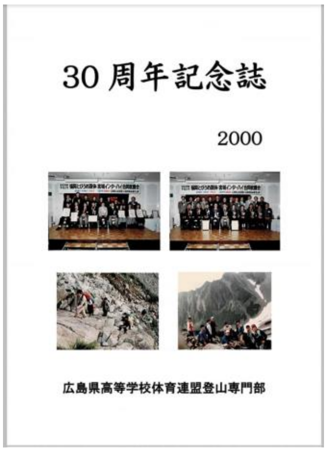
第１部　2010 年度以降の活動概要
第２部　加盟各校の紹介
第３部　夏山合同合宿について
第４部　研修・講習会（沢登り講習会・春の合同合宿）
第５部　全国大会（インターハイ出場・全国高校クライミング出場・インターハイ審査に関わって各先生より）
第６部　広島県主管中国大会
第７部　資料（県高体連登山部規則・内規、加盟校一覧、歴代顧問一覧、県総体会場・入賞校、中国大会県予選会場・入賞校、中国大会出場校一覧、インターハイ出場校一覧、広島県主催大会地図）

となっている。

10 年前に発行された『40 周年記念誌』を引き継ぐもので、大切な記録であると同時に、第２部～第５部の新たに書き下ろされた文章は読み物としても興味深いものになっている。また、表紙裏の年度ごとのカラー写真や巻末に付されたカラーの大会地図がきれいで、見栄えのするものともなっている。

寄贈された記念誌は事務所の本棚に置いておきますので、ぜひご覧ください。





30 周年記念誌は製本せず 2004 年 6 月にデータ配布のみしていたが、このたびそのデータをＡ４版 pdf に再編集

３．山岳・ＳＣセミナー案内

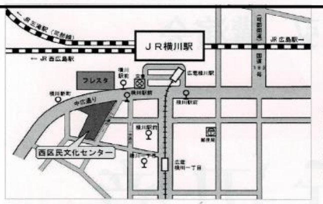
（理事長・国際部　豊田 和司）

コロナ禍で、比婆山スカイラン・岳連例会山行・県民ハイキングなど、多くの連盟行事が中止または延期のやむなきに至りましたが、先月の写真展に続き、10月開催予定の山岳・スポーツクライミングセミナーも予定通り開催することとします。

今年の講師は、「山岳・辺境文化セミナー」の開始以来、多くの尽力を頂いた**清水正弘さん**です。奮ってご参加ください。

会場では、座席間距離の確保や換気など、コロナ感染対策に努めます。ご参加の皆様も、マスク着用などのご協力をよろしくお願いします。

申込は、申込書にご記入の上、事務局に FAX で送って頂くか、申込書記載項目に則って事務局までメールをお送りください。なお、「連盟会員／一般」の区別もお願いします。**申込締切**は **10/2(金)**です。コロナ対策もありますので、会場の定員は**８５名**とし、申込みが定員を上回る場合は先着順とさせて頂きます。



アクセス
公共交通機関
JR JR横川駅南口より約200m
路面電車 横川電停より約200m、
横川一丁目電停より約240m
バス 横川新町バス停、横川一丁目バス停より約240m

西区民文化センター地下駐車場
利用可能時間 9:00−21:00
駐車可能台数 60台
高さ制限 2mまで　利用料 無料
注意事項 満車の場合は入口ゲートが開きません。
住宅用駐車場が併設されていますので、
お間違えの無いようお願い致します。
※ご来館にはできるだけ公共の交通機関をご利用ください。

お申込・お支払方法

参加ご希望の方は、10月 2日（金）までにFAXまたはメールで、氏名・〒・住所・電話・FAX番号・e-mail をご記入の上、下記事務局までお送りください（先着順）。参加費は当日受付にてお支払いください。

「山岳・スポーツクライミングセミナー2020　清水正弘 講演会」参加申込書

申込日（　月　日）

団体名		
申込代表者氏名		一般参加者は □
連絡先	（連絡先が申込代表者と異なる場合の氏名）	TEL(　　) FAX(　　) mail:

No.	氏名	年齢	性別	〒	住所	TEL FAX
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						

お問合せ・お申込み　〒733-0011広島市西区横川町2-4-17
広島県山岳・スポーツクライミング連盟事務局「山岳・スポーツクライミングセミナー2020」係
TEL＆FAX：(082)296-5597（月～金 12:00-17:00）　メール：hgakuren@lime.ocn.ne.jp

４．登山教室報告

（指導部長　森本 覚）

第 3 回 1 年生　8/30(日)
登山形態：日帰り山行
山域：高城山～蓮華寺山～日浦山
人数：12 名（スタッフ含）

今回は炎天下での行動が予想されましたので前回よりは歩行距離を少し短く計画しました。新型コロナ対策としてはチェックシートをつかい全員の体調を確認した上でスタートしました。行動は今回も 1、2 年合同で 2 班に分かれて行動しました。熱中症対策でこまめな休憩をいれたので全員無事、予定のルートを歩く事ができました。（森本）

『2020 年 8 月 30 日山行(高城山―蓮華寺山―日浦山)』

（登山教室 1 年生　李 京子）

先月の登山教室にはしびれました。月末が近づくにつれ、毛が生えた心臓も落ち着かない。昨夏、県民ハイキングで初めて登った近所の龍王山にも登ってみた。朝のラジオ体操以上のトレーニングを初めて試み

た八月だった。当日の予想最高気温は 36 度。瀬野駅を出発した早朝から気温はぐんぐん上昇。沿面距離 12km と先月比 2/3 だが、潜む敵は暑さ。熱中症予防としてこまめな休憩をとり、海田市駅に着いたのは予定を大幅に超えた 5 時過ぎだった。

一年生が交代で先頭に立ち、毎回ゆっくり歩かせてもらえているが、分岐を見落としたり戸惑っているそばで、冷静に読図している先輩たち。学んだ知識が実践と結び付くのはいつの日か。蓮華寺山を下り、団地を抜ける畑賀第四公園で休憩をとった頃は日差しもピークか、生き物は我々だけかのような静けさだった。蛇口からの水を頭から浴びても冷たくはない。飲料水は十分持参したが、氷があればもっと快適に暑さを凌げたようだ。この日、登山者はまばらだったが、アブは執拗な同伴者だった。森林香の煙にも怯む様子はない。ハッカスプレーも効果薄だったが、爽やかな香りに癒された。因みにその朝、真新しいハッカ油の原液を首回りに塗りたくった途端に皮膚が燃え上がり、爽やかどころかパチリと目が覚めたばかりである。冷却スプレーで一瞬でも涼を感じさせてくれるなど、スタッフの細かい心配りには毎回感謝するばかりである。

膝痛についても記しておきたい。今回、ハイカット靴を新調した。履き方からして拙かったようで、足首でぎゅっと締めてもらうと装着感は全く異なっていた。進行方向へまっすぐ小股に、靴底を地面の上から下へ平らに着地させるという歩き方も改めて意識すると、下りで右外膝に違和感を覚える。次第に膝が曲がる度に痛みが走った。CL が膝サポーターとテーピングで素早く処置。硬い靴を履いたことで、歩き方が矯正されているのだろうとの言。運動中は痛む筋を並行に撫でる、運動後は痛む筋と直角に指圧するとのマッサージ法も教わり、幸い翌日には痛みが引いた。所見がなければ原因不明の痛みに不安が拭えなかったことだろう。

ついに辿り着いた日浦山頂上。岩間を抜けると一気に視界が開け、海が見える、海が見えた。広島市内を一望する絶景に息をのんだ。登山後半、遠くで雷鳴が轟いていたが、その頃には空は雲が覆い風もあり、頂上でのひと時は一日の疲れを吹き飛ばして余りあった。余談だが、この山の下りで親戚の墓がある山麓の墓所に差しかかり、何だか見覚えのある風景に足が止まった。「さっと墓参りしておいで。」としばし待ってくれたメンバーにも目頭が熱くなった。墓参りには長らくご無沙汰していたが、私の心には息づいている大伯母は没後三十年だった。この歳にして山にいざなわれるのは、幼少期に連れられた山菜採りなどの淡い思い出によるものなのかもと思いながら、その夜は快い眠りにつく。今また、次の教室が楽しみであり恐怖でもある。

（写真提供　森本 覚）

５．岳連短信

１．寄贈御礼

三原山の会『筆影』No.486（9 月号）

福山山岳会『会報』R2.9 月号

広島山岳会『山嶺』第 861 号（R2.8 月）

２．岳連行事（県民ハイキング・岳連例会山行）の今後の見通し

県民ハイキングについては、11 月まで中止が決定されています。12 月（6 日・宮島）から再開するかどうか検討中です。

岳連例会山行のほうは、当初の県外山行の予定を見直しつつ、10 月頃からの再開を検討中です。

編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。

余白ができましたので、記事の本文中に掲載できなかった写真展の全作品を紹介します。

撮影は、出展者のお一人である笹田行雄さんによるものです。なお、これらの写真は、笹田さんが作成してくれた『第 2 回 広島県山岳・スポーツクライミング連盟 写真展』の小冊子の中のもので、小冊子は事務局に保管しておきます。

No.は展示順で、写真展リーフレットのものと同一です。

なお、来訪者の声として、「クライミングの写真がないのが残念だ」という感想もありましたので、来年はクライミングの写真もぜひ出展してみてください。

No. 1〜3

No. 4〜6

No. 7〜9

No. 10〜12

No. 13〜15

No.　16～18

No.　19～21

No.　22～23

No.　24～25

No.　26～27

No.　28～30

No.　31～33

No.　34～35

No.　36～37

No.　38～40